

# 資料編

- ②—1. 社会リーダー層やグローバル人材に必要な資質・能力の育成  
・・・P1～8
- ②—2. 多様な学習と幅広い進路選択が可能となる学習メニューの提供  
・・・P9～18
- ②—3. 「ものづくり」をはじめとする職業人の育成  
・・・P19～23
- ②—4. 「セーフティネット」の整備と「セカンドチャンス」の提供  
・・・P24～34

**②ー1. 社会リーダー層やグローバル人材に必要な  
資質・能力の育成**

# グローバル人材

## 育成・活用していくべき「グローバル人材」の概念

### ◎ 語学力・コミュニケーション能力

- 主体性・積極性、チャレンジ精神、協調性・柔軟性、責任感・使命感
- 異文化に対する理解と日本人としてのアイデンティティー

このほか、これからの社会を支える人材に求められる資質  
幅広い教養と深い専門性、課題発見・課題解決能力、  
チームワークとリーダーシップ、公共性・倫理観、メディアリテラシー

グローバル人材育成戦略(グローバル人材育成推進会議 審議まとめ H24.6)より

<参考>グローバル人材育成に係る初等中等教育の諸課題(グローバル人材育成推進会議 中間まとめ H23.6)より

- 英語・コミュニケーション能力等の育成、異文化体験の機会の充実
- 高校留学等の推進
- 教員の資質・能力の向上

# 国際バカロレア

## ➤ 国際バカロレアとは・・・

インターナショナルスクールや各国の現地校の卒業生に国際的に通用する大学入学資格を付与する仕組み。認定校において、国際バカロレア機構が定める教育課程(DP; Diploma Programme; 16~19歳対象)を修了することで「国際バカロレア資格」が取得できる。

日本の認定校はインターナショナルスクールを中心に24校。うち、一条校は立命館宇治中・高校はじめ6校。

### グローバル人材の育成と「国際バカロレア」

#### 平成23年3月 文科省「国際交流政策懇談会」提言

「グローバル社会で活躍できる人材を育成するため、日本の公立学校でも国際バカロレア機構の認定校が増えることが期待される。」

#### 平成24年6月「グローバル人材育成推進会議」

「認定校となる高校等を5年以内に200校程度に増やす」と目標設定

しかし、認定校になるためには、原則としてすべての授業を英語・仏語・スペイン語のいずれかで実施することが必要。

文科省が、カリキュラムの一部を日本語でも受けられるよう国際バカロレア機構との調整中。

#### 平成24年8月21日 文部科学省初等中等教育局

「国際バカロレアの趣旨を踏まえた教育の推進に関する調査研究」の研究校を公募。

### 国際バカロレアの趣旨を踏まえた教育の推進に関する調査研究

国際バカロレアのカリキュラムは、単なる知識だけではなく、問題発見・解決能力、論理的思考力、コミュニケーション能力などを重視。

\* DP(Diploma Programme)では、母語、外国語、個人と社会、実験科学、数学とコンピュータ科学、芸術又は選択科目の6グループで構成され、ここから、計6科目を2年間履修する。さらには、考え方の筋道を学ぶTOK(Theory of Knowledge)、研究論文、奉仕活動が必須。

学習指導要領がめざす「生きる力」の育成や日本再生戦略(H24.7 閣議決定)が掲げる重要スキルの確実な習得に資するもの。

国際バカロレアの趣旨を踏まえたカリキュラムや指導方法、評価方法等に関する調査研究を行うことにより、教育の改善に活かす。

#### 「国際バカロレアの趣旨を踏まえた教育の推進に関する調査研究」事業

##### ★事業概要

- ・H24年度からH26年度までの原則3年間の指定
- ・指定校数 全国で5校
- ・予算規模 1,200万円(1校あたり200万円程度)

# 進学指導特色校 (GLHS)

## ➤ 進学指導特色校 (グローバルリーダーズハイスクール (GLHS)) の理念とは・・・

- ・これからの社会のリーダーとして活躍できる人材を育成すること。
- ・「普通科」「文理学科」併置のメリットを最大限生かして、生徒どうしが互いに切磋琢磨できる学習環境の創出を図ること。
- ・10校が、これまでの伝統や実績を生かし、それぞれの特色に応じた教育活動を実現して、一層個性豊かに輝くこと。

## ➤ 取組内容について

○実施期間：平成23年度～25年度

- ・GLHS合同発表会
- ・京都大学や大阪大学との連携
- ・アルバータ大学 (カナダ) への生徒派遣研修
- ・科学系オリンピック対策合同勉強会 (数学・物理・化学・生物)
- ・授業力向上研修の実施
- ・学力診断共通テストの実施
- ・海外のトップリーダー校との交流とネットワークづくり
- ・10校ネットワークシステム
  - \* 学習や進路に関する情報を共有するイントラネットの整備
- ・教育環境の充実 (多目的教室・プロジェクト等) など

### 取組実績

- ・GLHS合同発表会…H24.2開催。生徒800名が参加。楠本祐一外務省大使の基調講演と各校代表による研究発表。
- ・京都大学との連携…H23.11のキャンパスガイドに生徒600名が参加し、大学の講義や研究に触れる機会を設定。H24.2に連携協定を締結。(大阪大学ともH24.7に連携協定締結)
- ・アルバータ大学 (カナダ) 生徒派遣…2か年続けて各校代表生徒1名を派遣。最終日には研修成果を全員が英語でプレゼン。
- ・科学系オリンピック対策合同勉強会…数・生・化分野あわせて7回実施。全国コンクールに数多く入賞。
- ・授業力向上研修…難関大学を志望する生徒の指導のための集中研修を5科目 (国・数・世史・日史・物) で計5回実施。

### <進学指導特色校>

- 北野    ○豊中    ○茨木    ○大手前
- 四條畷    ○高津    ○天王寺    ○生野
- 三国丘    ○岸和田

### ◆進学指導特色校の取組検証は年度ごとに「評価委員会」で実施。

- ・評価委員…淡路敏之京大副学長、菊地栄治早大教授、浅野良一兵教大教授、楠本祐一外務省特命大使、三澤廣人ヤンマー相談役
- ・AA・A・B・Cの4段階で取組評価。各校4項目計40項目中AA12項目・A22項目・B6項目・Cなし

# 「使える英語プロジェクト」事業

## ➤ 「使える英語プロジェクト」事業とは・・・

- ・府立高校生の英語コミュニケーション能力のさらなる向上を図る。
- ・実施期間：平成23年度～25年度

### 授業を変える取組

### 平成23年度取組実績

- ◆指導法の研究[English Frontier High Schools 24校]
- ◆外国人英語講師派遣
- ◆特設レッスンの開設 [G2、G3]
- ◆話せる英語が使える教材作成
- ◆Osaka English Forumの開催
- ◆学習機器の活用 [14校]
- ◆英語ルームの整備 [24校]

- 公開研究授業を24校で実施
- 24校に27人派遣 ※プレゼン、ディベートなどの言語活動導入
- 授業外に生徒の学習到達度に応じたレッスン(TOEFL・TOEIC)
- 学習指導案と教材集を府立高校全英語教員に配付
- 府立高校32校、のべ約600人が参加
- LL機器4校、タブレット端末10校に整備
- 昼休み・放課後に開放し、生徒が外国人講師と会話する場に

### 機会を与える取組

### 平成23年度取組実績

- ◆海外研修支援(引率教員旅費を公費負担)
- ◆国内活動支援

- 41校で実施(数年ぶりに海外研修を復活させた学校も現れる)
- 31校で実施(スピーチコンテスト、イングリッシュ・キャンプなど)

### さらに伸ばす取組

### 平成23年度取組実績

- ◆Advanced Class(府内4会場)
- ◆TOEFL・TOEIC団体実施

- 全30回受講者111名 ※TOEICスコアの伸び29点
- TOEFL受験者数 12校111人、TOEIC受験者数 15校114人

### 教員を鍛える取組

### 平成23年度取組実績

- ◆府教育C研修(3日)、短期集中研修(5日)
- ◆海外派遣研修

- 教育C研修は40人が、短期集中研修は39人が参加
- 教育研修C 2カ月は3人が、豪州大学3週間は4人が参加

# イングリッシュ・フロンティア・ハイスクールズ(EFHS)

## ➤ イングリッシュ・フロンティア・ハイスクールズ(EFHS)とは・・・

- ・24校を研究指定校として、各校の到達目標を設定し、確かな学力を育むことに加え、英語コミュニケーション能力のさらなる向上をめざす取組を実施。
- ・実施期間:平成23年度～25年度

Grade 3 【5校】 ★高校卒業までに英語でディベートやディスカッションができるようになることをめざしています！  
○箕面 ○和泉 ○千里 ○住吉 ○泉北

Grade 2 【9校】 ★高校卒業までに英語でプレゼンテーションができるようになることをめざしています！  
○旭 ○枚方 ○牧野 ○夕陽丘 ○花園 ○長野 ○佐野 ○槻の木 ○鳳

Grade 1 【10校】 ★高校卒業までに英語で日常会話ができるようになることをめざしています！  
○東淀川 ○豊島 ○茨木西 ○吹田 ○茨田 ○交野 ○山本 ○東百舌鳥 ○岬 ○松原

## ➤ 取組内容について

- ・指導法の研究
- ・英語特設講座等の開設
- ・Osaka English Forumの開催
- ・語学用学習機器の活用
- ・話せる英語が使える教材づくりの実施
- ・外国人講師の各校への派遣

# スーパーサイエンスハイスクール(SSH)

## ➤ スーパーサイエンスハイスクール(SSH)では・・・

- ・将来、科学技術の世界で国際的に活躍できる人材を育成するため、先進的な理数教育を実施。
- ・カリキュラム開発や課題研究、実験・観察等を通じた体験的・問題解決的な学習を実施。
- ・国(文部科学省)がSSHにふさわしい学校を指定。指定期間は5年間。
- ・全国で178校を国指定。うち、**府立高校は12校。都道府県で最多です。**
- ・研究開発費用は1校当たり年間約一千万円。

## ➤ 主な取組内容について

- ・大学や研究施設、地域の小中学校との連携
- ・科学コンテストやコンクールへの参加
- ・英語によるプレゼン能力の育成
- ・海外の学校との共同研究や国際科学会議の実施 等

### 取組実績

大阪はSSH指定校数、全国一！(府立12校)  
切磋琢磨できる好環境を生かし、次世代の科学者を育成

- 科学オリンピック出品数125本、うち全国入賞が5本。
- 研究発表報告の概要はすべて英語で表記、英語で発表するグループも激増。
- 全国の数学研究の拠点校として有名(大手前高校)  
\*H24.8「マス・フェスタ」開催。全国31校300名が参加。
- 全国初の農業高校としてSSH指定(園芸高校)
- ネットワークをフル活用し、科学の祭典(大阪サイエンスデイ)を開催。

## <府立高校におけるSSH指定校:12校>

- |              |              |              |
|--------------|--------------|--------------|
| ○天王寺(H16年度～) | ○泉北(H18年度～)  | ○住吉(H19年度～)  |
| ○大手前(H20年度～) | ○高津(H20年度～)  | ○三国丘(H21年度～) |
| ○豊中(H22年度～)  | ○生野(H22年度～)  | ○千里(H22年度～)  |
| ○岸和田(H23年度～) | ○四條畷(H24年度～) | ○園芸(H24年度～)  |

国指定の  
12校



# 海外の先進的な学校への教職員派遣事業

## ➤ 海外の先進的な学校への教職員派遣事業とは・・・

- ・学校現場の教員等が海外の先進的な取組を体感し、今後の各学校での取組や大阪全体の教育施策に反映させる。
- ・実施期間：平成23年度～24年度

### 平成24年度事業内容

派遣時期	9月中旬から12月上旬を予定	
形態	短時間滞在型	長時間滞在型
	2泊3日の日程で、学校や教育機関等4～5か所程度訪問。1か所、最低2時間以上滞在。(マカオ・シンガポールは2日間の視察日を確保するために3泊4日の設定とする。)	3泊4日の日程で、1日1校の学校を集中的に視察。拠点校以外に1～2か所程度訪問先(学校・教育関係機関等)を設定。
派遣先	8都市	4都市
	ソウル、忠清南道天安、北京、上海、マカオ、台北、台中、シンガポール	忠清南道天安、京畿道水原、上海、台北
派遣人数	1グループ20名を基準(ただし、マカオ及びシンガポールは10人、ソウルは25人を1グループ)とし、上記の8都市(ソウル・上海には2グループ)に派遣する。計190人	10名を1グループとして、上記の4都市に派遣する。計40人
	平成24年度 230人を派遣	
テーマ	次世代リーダー育成、英語教育、理数教育、科学教育、情報教育、職業教育など	

**②一2. 多様な学習と幅広い進路選択が可能となる  
学習メニューの提供**

# 普通科と総合学科の基準

## ➤ 普通科と総合学科の基準・・・

普通科と総合学科の基準を比較すると、学校設定科目を修得単位数に含めることができる単位数は、普通科では20単位までであるが、総合学科ではその制限はない。

	普通科	総合学科
必履修教科・科目等	○普通教科10教科31単位以上	○普通教科10教科31単位以上 ○「産業社会と人間」及び専門教科・科目を25単位以上開設
総合的な学習の時間	○卒業までに3～6単位時間が標準 ○学校が適正に配当	○卒業までに3～6単位が標準 ○学校が適正に配当 ○課題研究的な学習を含むこと
学校設定科目	○修得単位数に含めることができるのは <u>20単位</u> まで	○ <u>制限なし</u>

(注1)「単位」とは・・・1単位＝50分授業 × 35週(通信制の課程を除く。)卒業までに履修させる単位数は74単位以上

(注2)学校設定科目とは・・・学校の特色を出すために、学校が独自に設ける科目

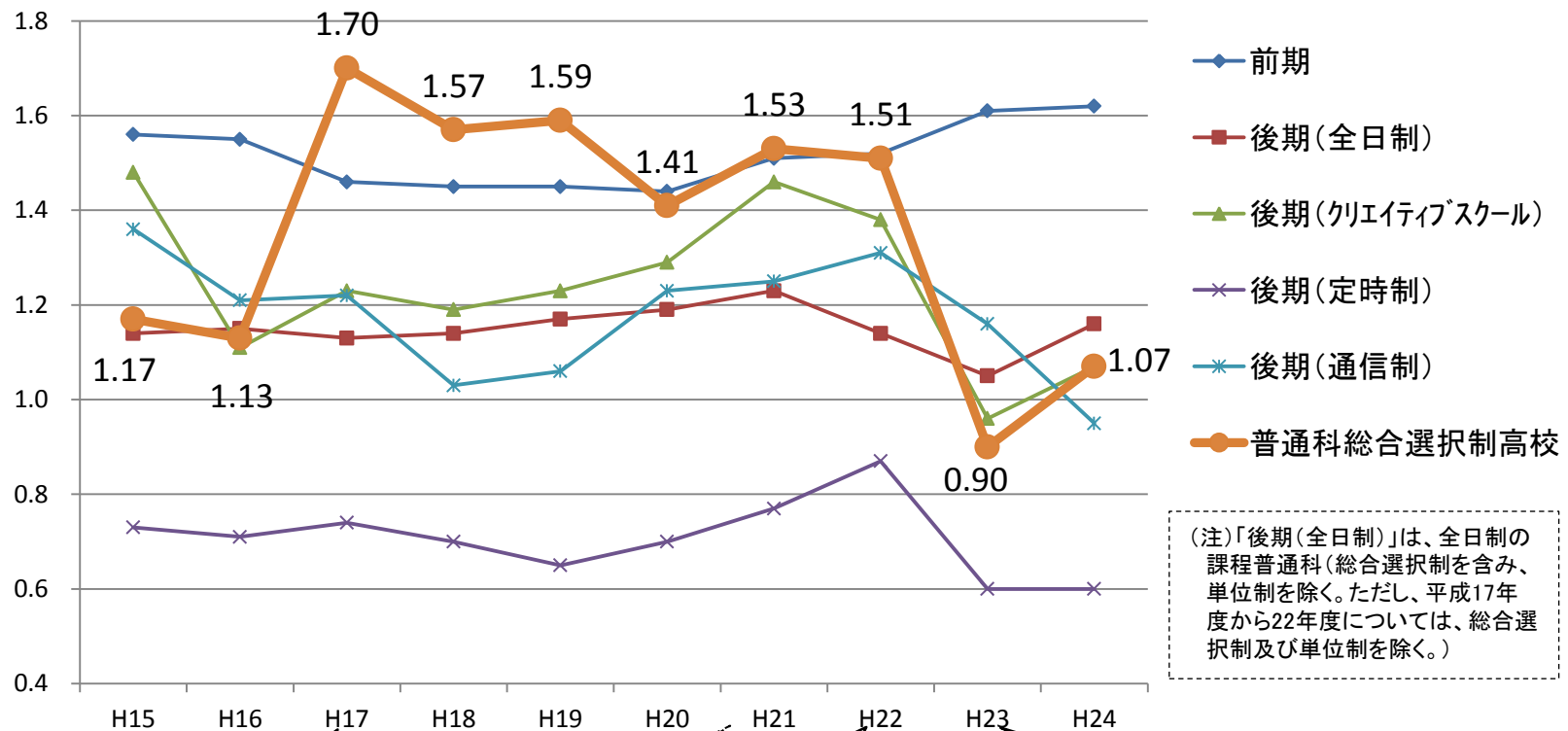
# A校(総合学科高校)が学校で新たに設定した主な科目(H23)

国語	地理歴史	公民	数学	理科	保健体育・体育	芸術・総合造形
基礎国語 表現演習 文学講読 日本語 古典演習	郷土研究 アジア研究 国際交流 観光学	時事問題	数学演習 教養数学	総合科学 環境科学 生命科学 気象の科学 基礎科学実験	スポーツ科学 スポーツコンディショニング	実用書 音楽鑑賞演習 書造形演習 和楽器演習 木工、金工 染織、陶芸 仮名の書 漢字の書 音楽図画工作実習

外国語・英語	福祉	その他	
英文法基礎 英会話 エッセンス・オブ・イングリッシュ 構文演習 読解演習 英語基礎 中国語 韓国朝鮮語 フランス語 スクリーンイングリッシュ	手話	アンサンブル ビジュアルデザイン 彫刻・立体 造形演習 絵画表現 キャリアセミナー 販売士講座 油彩画	デッサン色彩・立体 簿記演習 ワープロ演習 プログラミング基礎 ビジネス情報処理 バイオテクノロジー ウェブデザイン 生活デザイン

# 公立高校の志願倍率の推移

- これまで、前期選抜(特色ある学校・学科)の志願倍率は高水準で推移する一方、後期選抜(普通科(単位制を除く)、クリエイティブスクール及び全日制以外の課程)の志願倍率は経済情勢等の影響を受けて変動。
- 特に普通科総合選択制高校の志願倍率は、選抜制度の変更や社会情勢の影響を受けている。



(注)「後期(全日制)」は、全日時の課程普通科(総合選択制を含み、単位制を除く。ただし、平成17年度から22年度については、総合選択制及び単位制を除く。)

・「前・後期選抜制度」開始

・計画進学率の見直し  
92.3% → 93.9%  
・普通科総合選択制を前期に移行

リーマンショック

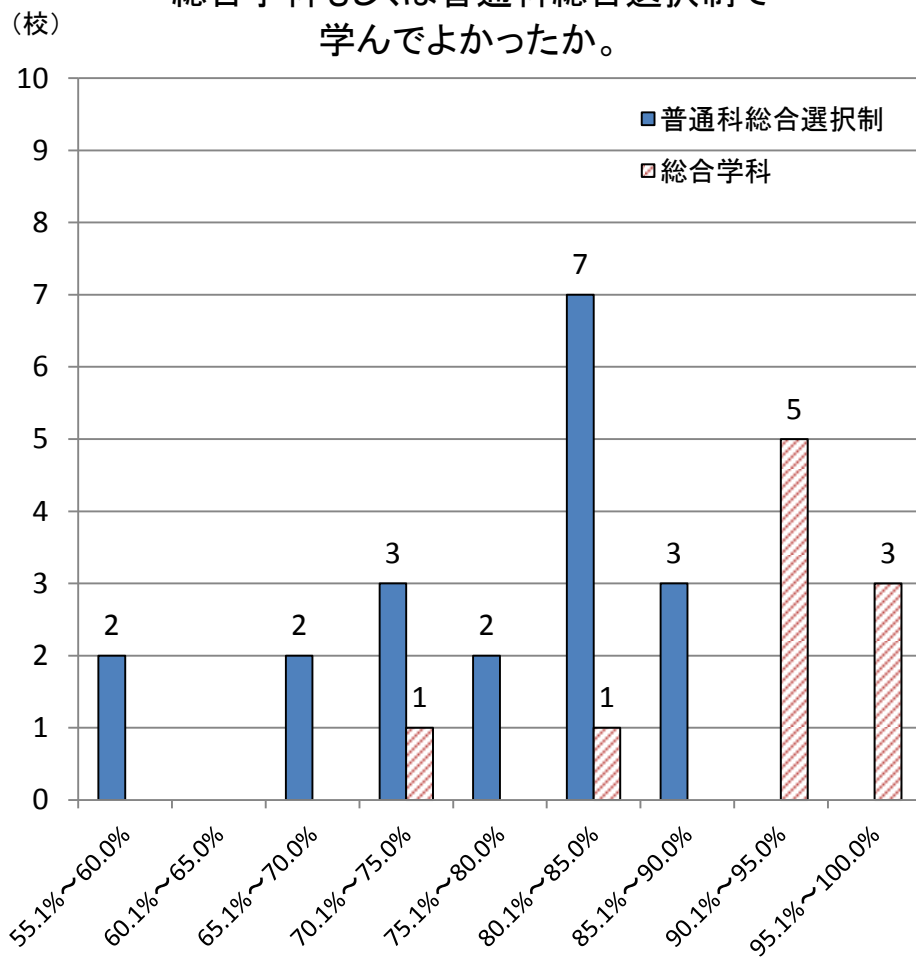
・セーフティネットの観点から、従来の公私比率(7:3)に基づく公立受入数に960人を加えて募集  
・公立無償化

・公私比率(7:3)廃止  
・普通科総合選択制を後期に移行  
・私立無償化の拡充

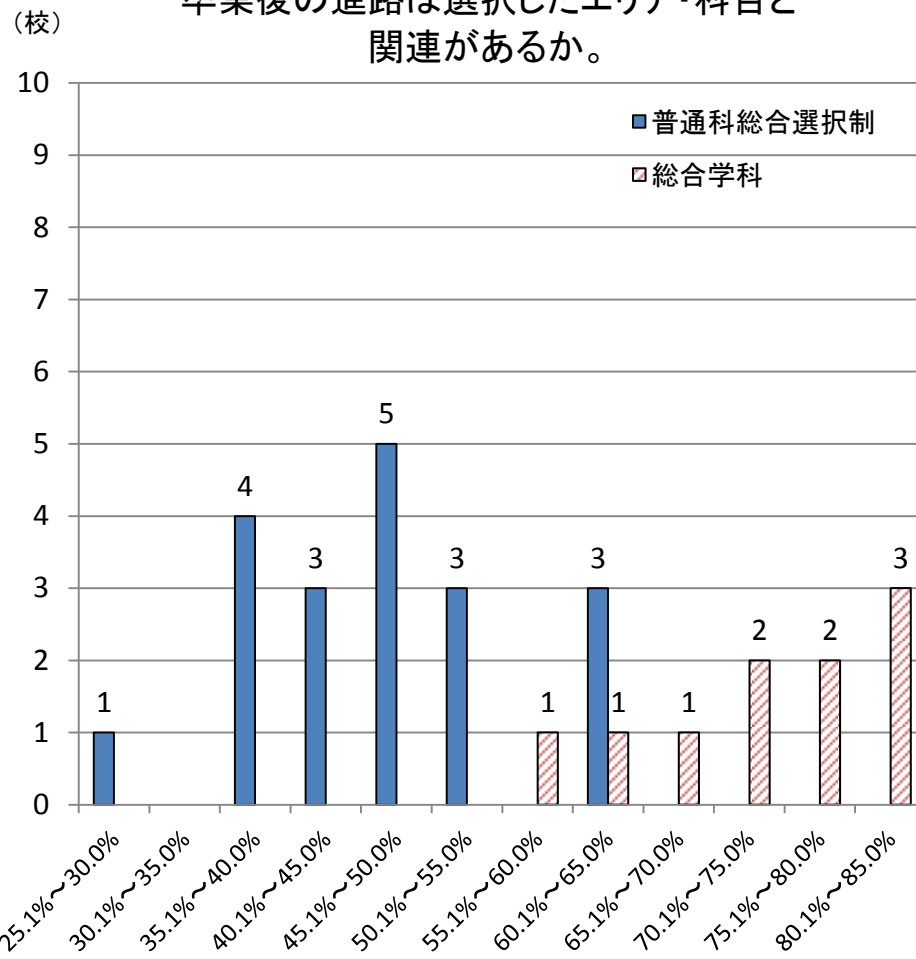
# 総合学科と普通科総合選択制のアンケート結果比較

- ▶ 生徒満足度については、両者が混在している中で、総合学科の方がやや高い傾向にある。
- ▶ 両者とも特定の進路を想定した学習内容ではないものの、結果的に総合学科の科目設定の方が卒業後の進路に結びつきやすいということがうかがわれる。

総合学科もしくは普通科総合選択制で  
学んでよかったか。



卒業後の進路は選択したエリア・科目と  
関連があるか。



# 専門コースの設置状況(H24)

設置年度	学校名	コース名
平成13年度	池田北	音楽
	平野	環境・人間
平成14年度	岬	海洋
平成16年度	岬	情報
平成18年度	阿武野	福祉 ----- スポーツ
	岸和田	理数 ⇒文理学科に移行
	布施北	デュアル ⇒デュアル総合学科に移行(H25～)
	北野	SS(スーパーサイエンス) ⇒文理学科に移行
平成19年度	久米田	理数 ----- 体育
平成22年度	北淀	造形
	泉尾	アクティブスポーツ
	茨田	コミュニケーション
	寝屋川	グローバルコミュニケーション ----- グローバルサイエンス
	八尾	アドバンス・教育
	美原	体育
	富田林 堺西	Human Development 体育・芸術・創造表現

設置年度	学校名	コース名
平成23年度	島本	保育
	吹田	こども未来
	枚方津田	英語専門
	交野	理数専門
		英語専門
	長尾	人文ステップアップ
	門真西	文化コミュニケーション
	阪南	アジア太平洋文化
	福泉	環境科学
		国際文化
信太	スポーツ科学	
平成24年度	高槻北	教志
	芥川	グローバル
	河南	エスペランサ
	東百舌鳥	看護医療
	泉大津	情報活用

- ・池田北高校(音楽) H13設置。「音楽理論」「ソルフェージュ」等の専門コース科目を設定。大阪音楽大学との高大連携、全校生徒による「芸術発表会」、地元の小中学校との連携コンサートを実施。
- ・平野高校(環境・人間) H13設置。「社会福祉基礎」等の専門科目を設定。  
ビオトープでの実験・実習や福祉施設や幼稚園との交流事業を実施。
- ・堺西高校(体育・芸術表現創造) H22設置。「スポーツ概論」「演奏研究」等の専門コース科目を設定。体育や芸術を通じた自分表現力の育成と体育・芸術系への進路選択の幅の拡大をめざす。
- ・枚方津田高校(英語専門) H23設置。「英語速読」「国際理解」等の専門コース科目を設定。1年次での英検受験生徒の増加がみられる。
- ・高槻北高校(教志) H24設置。「教志入門」「授業研究」等の専門コース科目を設定。大学教員を招いた講義や、保育園、幼、小、中学校などの教育現場の見学や体験を予定している。

<要件> 専門教科・科目を12単位以上設定

# 授業評価

## ➤ 授業評価とは・・・

- ・授業の質の向上により、生徒にとって「魅力的な授業」「わかる授業」を実現することを目的とし、多様な観点から授業を検証する一連の取組のことをいう。

### 授業評価の導入(H22～)

#### 「大阪の教育力」向上プランにおける今後の方針

平成22年度から全府立学校に授業評価を導入、実施する。  
(平成21年度、府立高校実施率78.4%)【組織的实施は40.7%】

#### 「平成22年度府立学校に対する指示事項」

全府立学校で授業アンケートを用いた授業改善の校内システムを構築すること。

#### 「高等学校授業評価ガイドライン」(平成22年3月策定)

学校として組織的に授業評価に取り組み、その成果や課題を教科や学校全体で共有することが重要である。

各校の取組が進捗

#### 「授業アンケート等に係る実施状況調査(H24.3実施)」結果

- ✓ 実施校数 154校／154校(100%)【組織的实施は95.5%】
- ✓ 実施回数 1回:97校 2回:52校 3回以上:5校
- ✓ 実施機会 HR:58校 一般授業:108校 研究授業:9校
- ✓ 実施教員 全員:105校 8割以上:29校 5割以上:13校  
5割未満:7校

### 全校共通した取組の導入(H25～)

#### 「高等学校授業評価ガイドライン」(平成24年9月策定)

各学校での授業改善の取組を一層推進するために、平成25年度から全校共通した取組を導入する。

#### 府立高校全校共通した取組

- ✓ 年2回、生徒による授業アンケートを実施する。
- ✓ 全教員について、担当する全クラスにおける授業アンケートを実施する。
- ✓ 各校が行う授業アンケートに、全校・全教員共通の質問項目を入れる。
- ✓ 校長・准校長が教員一人ひとりの評価結果を把握する。
- ✓ 学校全体や教科ごとにアンケート結果を集約し、全教員が共有して授業の改善に役立てる。

#### 各学校の取組に対する支援

各学校が行う授業アンケートの集計・分析作業の負担を軽減できるような支援方策を検討する。

大阪版 授業アンケート分析システム(仮称)を開発中



# 外部人材の教育活動での活用

- 外部人材を活用し、授業や部活動の一層の充実を図る。

## 特別非常勤講師による教科指導

### 活用内容

地域や社会で活躍するすぐれた技能や専門的知識を有する人材を「特別非常勤講師」「学校支援社会人等指導者」「スーパーインストラクター」等として学校教育で活用している。

### 活用現況

特別非常勤講師	延べ	約500名
学校支援社会人等指導者	延べ	約430名
スーパーインストラクター	延べ	19名

### 今後は…

民間の活力、専門性を学校現場に取り込み、授業等の一層の充実、活性化を図りたい。とりわけ、シルバー人材、

子育て卒業世代女性の活用を図ることが重要。

## 外国人講師による語学指導の充実

### 活用内容

これまでALT(外国語指導助手)の招致、NET(外国人英語指導員:府雇用)の配置、T-NET(外国人英語講師)の派遣をあわせて、府立高校(昼間の学校)への外国人講師の全校配置を実施してきた。

\* 学科・活用状況により1名～4名の配置

### 活用現況

ALT 37名 NET 46名 T-NET のべ98名

### 今後は…

「授業は英語で行うことを基本とする」、「授業を実際のコミュニケーションの場面とする」という新学習指導要領の理念を実現するために、外国人講師の活用及び日本人教師とのTT(ティーム・ティーチング)の一層の充実を図る。

## 文化部・運動部における部活動指導

### 活用内容

専門的な技術指導力や技能を備えた適切な外部の指導者を部活動の指導者として活用している。

### 活用現況 (H24府立高校)

文化部:133校 295名

(茶・華道、吹奏楽、手話・点字、多文化共生など)

運動部:134校 298名

(バドミントン、バスケット、バレーなど30数種)

## ➤ 大阪の教育をリードするナビゲーションスクール

- ・府教育センターに附属する高等学校(全国初)を設置し、「ナビゲーションスクール」として先導的な実践・研究を展開し、その成果を発信することで大阪府の教育課題の解決に寄与する。
- ・教育センターと附属高等学校が一体となった「附属ならではの」特色ある教育活動を展開することで、生徒に夢と志をはぐくみ、自己実現に向けた支援を実施する。
- ・教科横断型の体験学習である「探究ナビ」を核に文理融合型の教育課程を編成し、すべての生徒にPISA型学力の育成をめざす。

## 附属ならではの特色ある授業(新たな学びの創造)

### ➤ 取組

- ◆ 探究ナビ
  - ・キャリア教育の柱
  - ・コミュニケーション能力の育成
- ◆ すべての生徒にとって分かりやすい授業づくり
  - ・タブレット端末や電子黒板等、ICTの効果的な活用
  - ・少人数及び習熟度別指導の推進
- ◆ 教育センターや外部機関と協働・連携した授業づくり  
【連携先】大阪府立大学、JAXA、JICA、市立博物館等  
【講座名】「宇宙講座」「グローバルスタディ」「理科特別授業」等

### ➤ 成果

「探究ナビ」の授業における生徒の意識の変容(平成23年4月、及び平成24年2月に実施)。

- 目標を達成するために解決すべき課題を見付ける力が付いた:  
48.8%(4月)→58.1%(2月)
- 自分に必要な情報や資料を探したり選び出したりする力が付いた:  
41.8%(4月)→55.3%(2月)
- 自分の考えや意見を相手が納得するように伝える力が付いた:  
38.9%(4月)→50.7%(2月)

授業アンケートからみる学校生活の満足度(平成24年7月実施)

- 学校生活に満足している(1年生): 80%

## 人材育成と授業改善

### ➤ 取組

- ◆ パワーアップ24(校内自主研修会・月1回)
  - ・ベテラン教員が教職経験年数の少ない教員を指導
- ◆ 授業研究会(各学期2回)
  - ・校内全体での授業研究の推進
- ◆ 指導教諭の活用
  - ・教育相談事例研究会
  - ・高等学校教育課程説明会
  - ・初任者研修等での指導助言
- ◆ 授業改善に向けた授業評価の活用

### ➤ 実績(H23年度)

- ①研究授業
  - リーディングティーチャー養成研修(保健・40名)
  - 高等学校初任者研修(国語・40名)
  - 校内教員相互授業見学会(60名)
- ②公開授業
  - 中学校教員対象公開授業(85名)
  - 「授業研究」発表会(45名)
  - 「探究ナビ」演劇発表会(400名)

# がんばった学校支援事業

## ➤ がんばった学校支援事業とは・・・

- ・一層質の高い教育が行われることを目的として、全国的に顕著な成果をあげた学校又は優れた取り組みを実践し、成果の普及に努めるなど大阪の教育力向上に貢献した学校に対し、実績に応じて予算を配当又は補助金を交付する。
- ・事業年度：平成23年度～25年度

## ➤ 評価項目

将来ビジョン	教育目標	評価項目
「将来ビジョン・大阪」 教育・日本一	学ぶ力ナンバー1	英語教育、理数教育、芸術教育、保健・安全教育、国際理解教育、福祉教育、環境教育、図書館教育、「ともに学び、ともに育つ」教育、その他
	「夢」と「希望」をはぐくむ学校 オンリー1	大学進学実績、中途退学者数及び率の減少、人権教育・道徳教育、社会貢献・ボランティア活動、部活動、その他
	職業教育ナンバー1	実業教育(伝統産業を含む)、資格取得者数及び率の伸び、進路未決定率の減少、就職内定率の伸び、その他

## ②—3. 「ものづくり」をはじめとする職業人の育成

# ものづくり教育コンソーシアム大阪

## ➤ 「ものづくり教育コンソーシアム大阪」とは・・・

『大阪の教育力』向上プラン』にもとづき、地域産業との連携強化や高等教育機関との接続の拡充を進めるなど、大阪の産業基盤を継承・発展できる日本一の工科高校づくりをめざし、提案、指導・助言、支援、評価を行うことを目的として、平成22年2月に設置。学識経験者、産業界、経済界等の委員が構成員。

## ➤ 工科高校における今後の人材育成の方向性(コンソーシアムの議論から)

＜論点＞ ①工科高校が育成すべき人材像

②工科高校における教育内容の質の保証と工科高校9校の個性化(=人材育成の重点化)

### 【育成すべき人材像】

- ものづくりのマインドを持った、将来高度技術者となる人材
- 国際競争力に勝つ高付加価値を生み出す人材
- ものづくり現場のリーダーとして、監督、改善提案のできる人材

### 【教育内容の質の保障】

- 工学系大学で学習を継続するための学力とルートの保証
- 生徒が身につける知識、技術及び技能の質の保証
- 工科高校の職業教育の拠点としての機能充実

### 【人材育成の重点化】

- (1) 高大連携重点型  
工学系大学への進学をめざす系・専科を設置し、大学・高専と連携した授業を積極展開。エンジニアの育成に重点を置く。
- (2) 実践的スキル養成重点型  
高度な職業資格取得をめざす授業を展開。取得した資格を活かせる技術者の育成に重点を置く。
- (3) 地域産業連携重点型  
長期企業実習・インターンシップを大胆に取り入れる。実習経験から身につけた技術・技能を活かす技術者の育成に重点。

# 大阪の工科高校・農業高校の取組について①

学校名	① 茨木工科	② 淀川工科	③ 西野田工科	④ 今宮工科	⑤ 城東工科	⑥ 布施工科
特色	○機械 (生産技術専科等)	○機械 (機械設計専科等)	○機械 (機械技術専科等)	○機械 (機械技術専科等)	○機械 (機械技術専科等)	○機械 (生産技術専科等)
	○電気 (電子情報通信専科等)	○電気 (電子情報通信専科等)	○電気 (電気技術専科等)	○電気 (電気技術専科等)	○電気 (電子情報通信専科等)	○電気 (電気技術専科等)
	○環境化学システム	○メカトロニクス	○建築都市工学  ○工業デザイン	○建築  ○グラフィックデザイン	○メカトロニクス	○建築設備
実績	・高校生ものづくりコンテスト全国入賞 (化学分析、電気工事)	・メカトロニクス技術教育で大阪のリーダーを育成	・屋上ピオトープなど住空間づくりで実績	・技能士2級など高度技術の資格取得で有数の実績	・人にやさしいユニバーサルデザインのものづくり	・「ものづくりの町東大阪」を担う人材を供給
		・ロボカップ世界大会で優勝	・巨大イルミネーション(西野田ルミナリエ)づくりで地域貢献	・大学へも多数進学	・手話ロボットの開発など生活を支えるロボット活用技術	・建築配管技術で技能オリンピックをめざす技術
人材育成の方向性	・バイオ技術	・メカトロニクス技術	・都市工学技術	・高度加工技術	・ユニバーサルデザイン	・高度加工技術
	・マイコン制御技術		・機械設計加工技術	・印刷デザイン	・ロボット制御技術	・住宅設備技術
23年度導入設備	内燃機関総合性能試験装置	倒立金属顕微鏡	旋盤	円筒研削盤	旋盤	ヒューム集塵機
24年度導入予定設備	なし	なし	水理実験装置 CAD・CAM レーザー加工機	歯切り盤	フライス盤	CAD・CAM レーザー加工機
CAD・高度情報処理システム(LAN)	高度情報	CAD・高度情報	CAD・高度情報	CAD・高度情報	CAD・高度情報	CAD・高度情報

※平成23年度導入設備は、老朽化・安全性の低下した設備を主として更新を図った。(予算額:170,337千円)

※平成24年度導入予定設備は、老朽化・安全性の低下した設備の更新のほか、レーザー加工機など先端技術を学ぶ新規設備の整備を図る。(予算額:405,419千円)

※CAD・高度情報処理システムは、リースにより整備を図っている。

# 大阪の工科高校・農業高校の取組について②

学校名	⑦藤井寺工科	⑧堺工科	⑨佐野工科	⑩園芸	⑪農芸
特色	○機械 (機械設計専科等)	○機械 (機械技術専科等)	○機械 (機械技術専科等)	○環境緑化	○ハイテク農芸
	○電気 (電子情報通信専科等)	○電気 (電子制御専科等)	○電気 (電気技術専科等)	○バイオサイエンス	○食品加工
	○メカトロニクス	○環境化学システム	○テキスタイル	○フラワーファクトリ	○資源動物
実績	・電気工事士や電気工事施工のための資格取得数で有数の実績	・「刃物づくり」など伝統技術を活かした金属加工技術の習得	・新素材(宝石染め繊維など)や繊維製品デザインの研究開発	・バイオでササユリの新種の開発	・企業と共同開発した「農芸パーク」を商標登録
	・企業と連携して2足歩行ロボットを研究	・リサイクル燃料製造装置の開発	・竹炭製造装置開発などものづくり教育で起業家教育	・高校生で技能五輪出場(造園部門)	・ふれあい移動動物園で地域貢献
人材育成の方向性	・電気制御技術	・化学分析技術	・新素材開発技術	・ハイテクノロジー技術	・食品加工技術
	・メカトロニクス技術	・工程管理技術	・製品開発力	・栽培技術	・畜産飼育技術
				・庭園緑化技術	
23年度導入設備	円筒研削盤	原子吸光分析装置	NC旋盤	高速液体クロマトグラフ	両面クリーンベンチ
24年度導入予定設備	系統連系実習装置	合成研究用ドラフトチャンパー	高電圧試験装置	多領域顕微鏡観察実験装置	なし
	CAD・CAMレーザー加工機	CAD・CAMレーザー加工機			
CAD・高度情報処理システム(LAN)	CAD・高度情報	CAD・高度情報	CAD・高度情報		

※平成23年度導入設備は、老朽化・安全性の低下した設備を主として更新を図った。(予算額:170,337千円)

※平成24年度導入予定設備は、老朽化・安全性の低下した設備の更新のほか、レーザー加工機など先端技術を学ぶ新規設備の整備を図る。(予算額:405,419千円)

※CAD・高度情報処理システムは、リースにより整備を図っている。

# これからの大阪の農業教育について

大阪の農業  
現状と課題

- 農業従事者の高齢化 ⇒ 後継者不足
- 農業の関連産業への拡大 ⇒ 植物工場、食品加工、ヒューマンサービス等の関連産業担い手供給
- 6次産業化への流れ ⇒ 生産（1次）・加工（2次）・流通（3次）の一貫産業の創出
- 都市農業の活性化 ⇒ 新鮮、安全安心の農産物生産

人材育成の  
観点

- 大阪の都市農業を拓く職業人の育成  
＝ チャレンジ精神・豊かな人間性・勤労観の醸成 ＝
- 大阪の農業・関連産業の担い手育成
  - 将来の農業スペシャリストの育成

農業高校の  
教育内容

6次産業化、ヒューマンサービスの流れに対応した農業教育を進め、生徒の多様な進路の保障を図る

- ① 課題研究発表、農業クラブ発表大会等の充実で、課題解決力、コミュニケーション力を育成
- ② 6次産業化やヒューマンサービス対応した教育の推進
- ③ 大学、農業大学校、関連産業等、外部の教育力の活用強化（農業教育のネットワーク活用）
- ④ 大学進学等多様な進路に対応したカリキュラムの編成
- ⑤ 生産・流通・経営の多様化、技術の高度化や精密化、安全な食料の安定的供給への対応した教育

- 6次産業化、ヒューマンサービスに対応した教育の充実



## ②ー4. 「セーフティネット」の整備と「セカンドチャンス」の提供

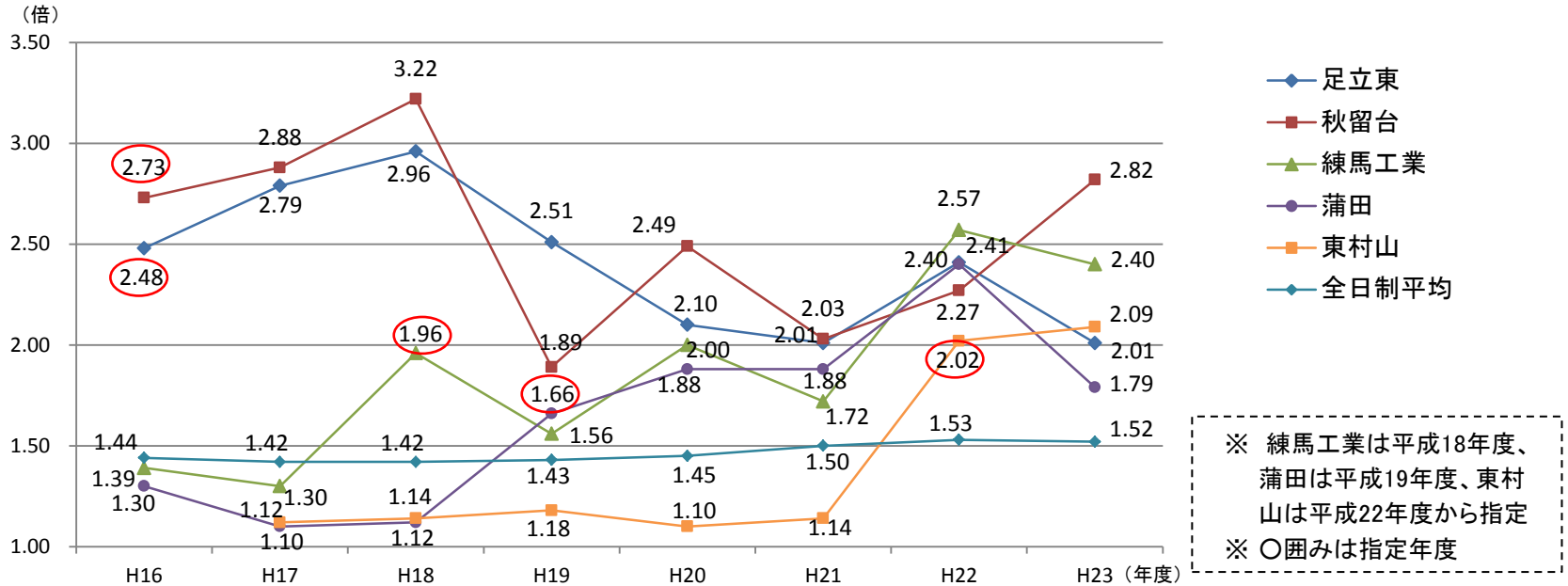
# 他府県学び直し支援の取組例

## 1. 東京都

	エンカレッジスクール(5校 指定校は次ページ参照)	チャレンジスクール(5校 指定校は次ページ参照)
課程・学科等	全日制普通科・工業科	多部制(昼夜間定時制)総合学科
設置のねらい等	<ul style="list-style-type: none"> <li>エンカレッジとは、「力づける」「励ます」「勇気づける」の意味</li> <li>小中学校でつまずいた生徒の「学び直し」を支援</li> <li>既設校を改編</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>不登校経験者、中退経験者が、夢や目標に向かってもう一度チャレンジ</li> <li>非社会的、内向的でまじめな生徒に、安心して学べる場を提供</li> <li>再編整備による新校設置</li> </ul>
選抜の特徴(H24年度選抜)	<ul style="list-style-type: none"> <li>学力検査なし</li> <li>3度の受検機会(推薦、前期、後期)</li> <li>調査書(観点別評価)、面接、小論文、自己PR</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学力検査なし、調査書不要</li> <li>面接、作文、申告書(前期、後期)</li> <li>30人定員</li> </ul>
教育課程の特色等	<ul style="list-style-type: none"> <li>定期考査を実施せず、提出物や随時の小テストなどにより多角的に評価</li> <li>国・数・英を中心に30分授業、午前は座学、午後は体験学習・選択教科中心</li> <li>二人担任制</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>4修制が基本、他部履修により3年で卒業することも可</li> <li>国・数・英等で学び直しの基礎科目を設置し、少人数授業</li> <li>ボランティア、福祉活動的体験的な活動を通じて豊かな人間性を育成</li> <li>スクールカウンセラー配置</li> </ul>
成果・課題等	<ul style="list-style-type: none"> <li>入学者選抜は、各校とも2倍前後の倍率</li> <li>中途退学者数は大幅に減少</li> <li>進路未決定者が依然として多数</li> <li>⇒「社会的自立をめざした指導(ソーシャルスキルトレーニング等)を導入するなど、こうした生徒を少しでも減らしていくための取組が重要(※)」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>入学者選抜は、各校とも高倍率で推移。</li> <li>⇒「設置場所の地域的なバランスも考慮した上で、高倍率を解消していくことが課題(※)」</li> <li>中途退学者、進路未決定者が多数</li> <li>⇒「社会的自立をめざした指導(ソーシャルスキルトレーニング等)の導入するなど生徒のキャリア形成支援に向けた施策を展開し、こうした生徒を少しでも減らしていく取組が重要(※)」</li> </ul>

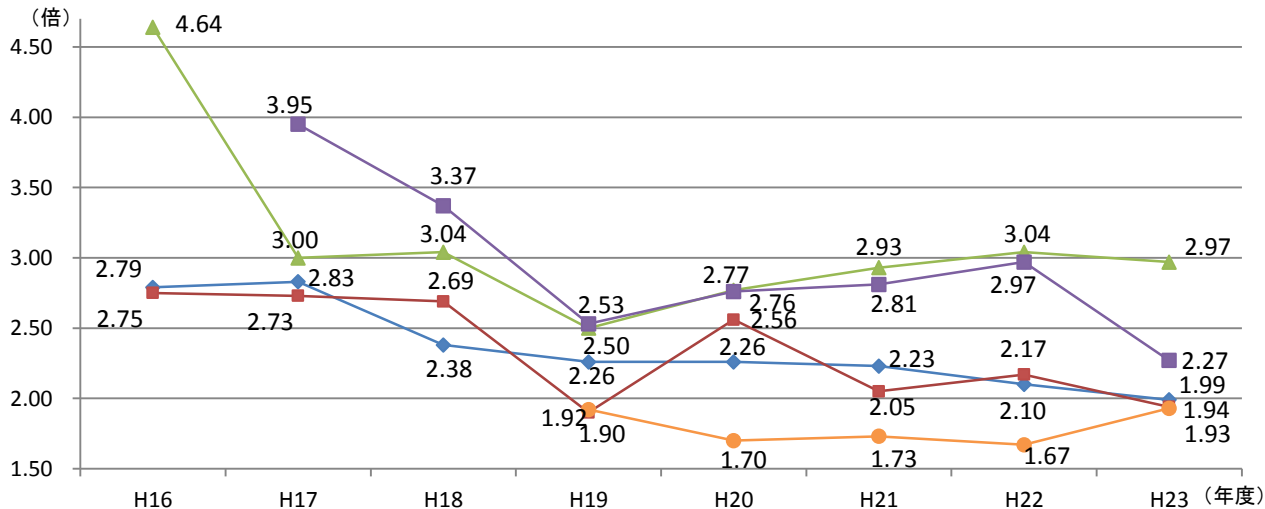
(注)「※」は平成23年9月「都立高校と生徒の未来を考えるために 都立高校白書(東京都教育委員会)」(以下「都立高校白書」という。)からの引用

## ○ エンカレッジスクールの志願倍率の推移



出典:「都立高校白書」

## ○ チャレンジスクールの志願倍率の推移



出典:「都立高校白書」

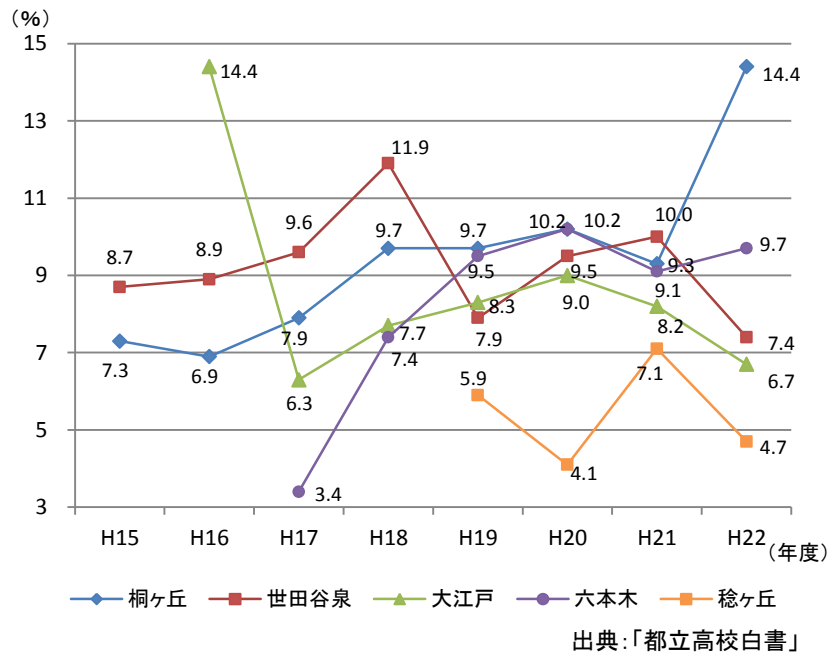
## ○ エンカレッジスクールの中途退学者数の変化

(エンカレッジ指定前・指定後)

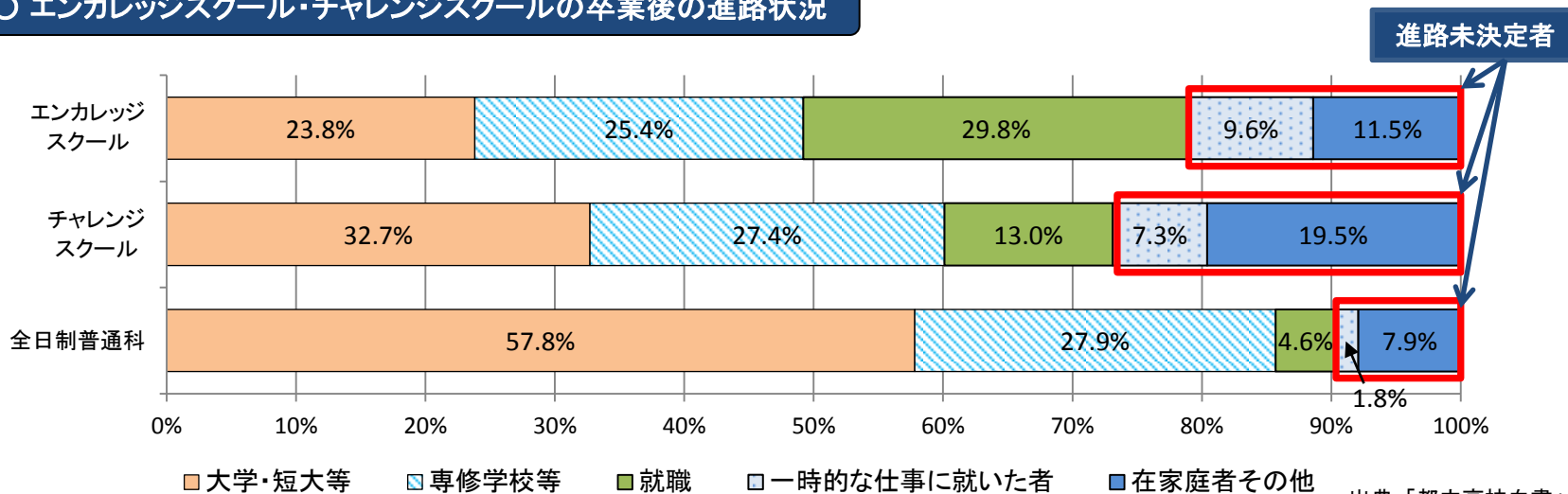
	指定年度	指定年度以前3カ年平均の中途退学者数		平成22年度の中途退学者数	
		人数	学級数	人数	学級数
足立東	H15年度	109人	(18クラス)	17人	(15クラス)
秋留台	H15年度	90人	(21クラス)	22人	(18クラス)
練馬工業	H18年度	57人	(15クラス)	20人	(15クラス)
蒲田	H19年度	60人	(18クラス)	34人	(15クラス)
計		316人		93人	

出典:「都立高校白書」

## ○ チャレンジスクールの中途退学率の推移



## ○ エンカレッジスクール・チャレンジスクールの卒業後の進路状況



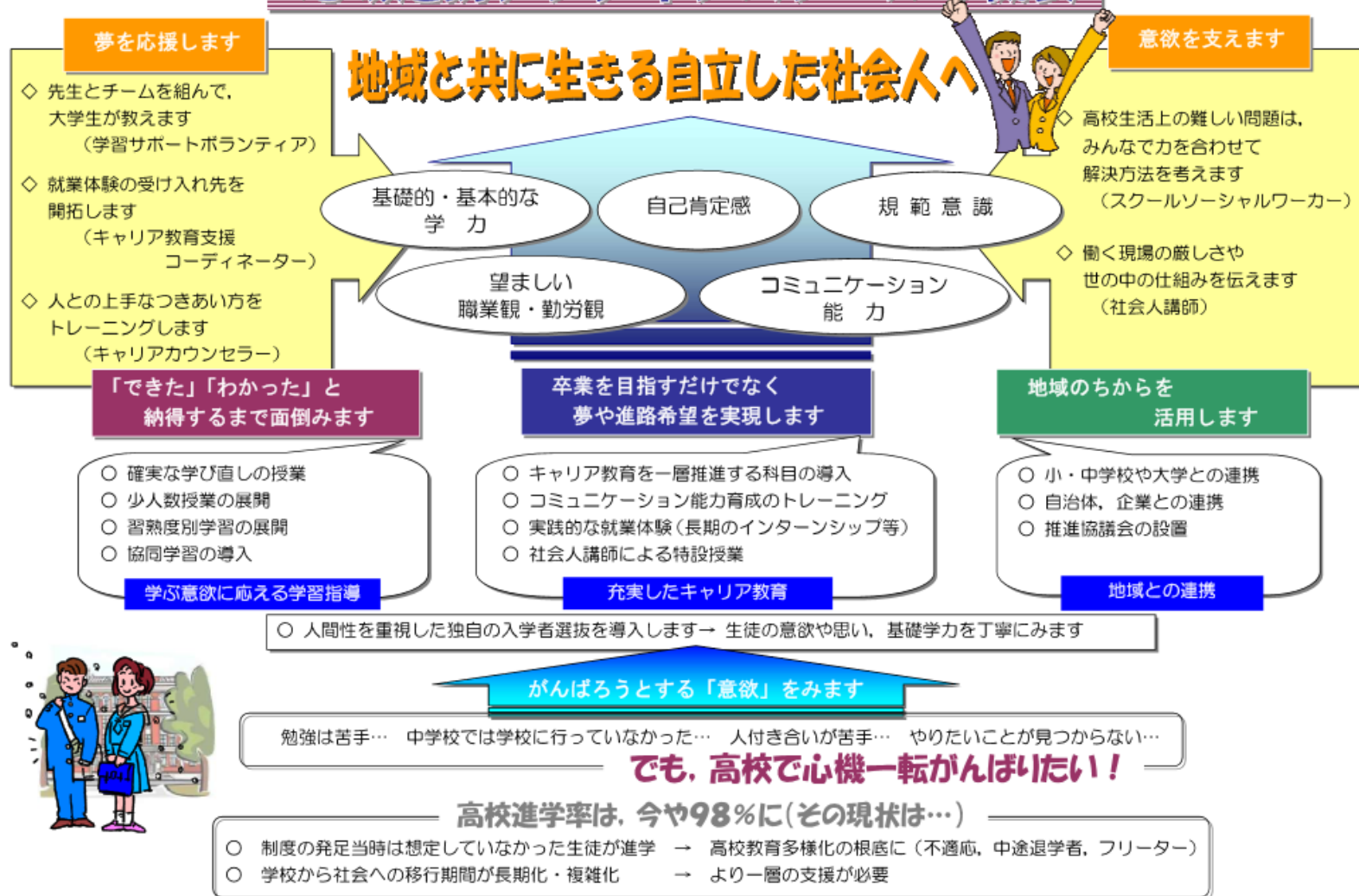
## 2. 千葉県

	地域連携アクティブスクール(2校 県立泉、県立天羽)
課程・学科等	全日制普通科
設置のねらい等	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 平成24年度から「<u>県立泉</u>」「<u>県立天羽</u>」の2校を指定(今後さらに2校を指定する予定)</li> <li>• 「<u>地域との協同により、社会とのつながりを重視して、一人一人の生徒に応じた「学び直し」や「キャリア教育」を行い、これまで十分に発揮しきれなかった生徒の能力を引き出し、コミュニケーション能力や倫理観等を養い、地域と共に生きる自立した社会人の育成を目指す新しいタイプの学校</u>」(平成24年3月「<u>県立学校改革推進プラン(千葉県教育委員会)</u>」より抜粋)</li> </ul>
選抜の特徴 (H24年度選抜)	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 両校とも独自の選抜を実施               <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 泉                   <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 「<u>学力検査(国数英)</u>」、「<u>調査書</u>」、「<u>面接</u>」、「<u>作文(一期のみ)</u>」</li> <li>➢ 二期選抜の学力検査は<u>学校独自問題</u></li> <li>➢ 調査書については、<u>評定以外の記載項目についても積極的に評価(評定の千葉県補正は行わない)</u></li> </ul> </li> <li>○ 天羽                   <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 一期は、<u>学力検査(国数英)</u>、<u>調査書(評定以外の記載項目について、一部を点数化)</u>、<u>自己表現(スピーチ、体育系実技、文科系実技の3種から一つを選ぶ)</u>、<u>面接</u>、<u>作文</u></li> <li>➢ 二期は、<u>学力検査に替えて「口頭試問」(思考、判断、中学校までの学習内容の範囲内の知識等に関する問題を10分程度課す)</u>、<u>調査書(一期に同じ)</u>、<u>面接</u></li> </ul> </li> </ul> </li> </ul>
教育課程の特色等	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 学校設定科目「<u>ベーシック(泉)</u>」               <ul style="list-style-type: none"> <li>→ 教員2人によるTT(ティームティーチング)と学習サポートボランティア(大学生)の活用</li> </ul> </li> <li>• 学校設定科目「<u>総合基礎 ステップアップ(天羽)</u>」               <ul style="list-style-type: none"> <li>→ 教員3人によるTT、20分授業</li> </ul> </li> <li>• 第1学年では、1クラスを2展開し、少人数指導</li> <li>• キャリア教育コーディネーター、スクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラーの配置</li> </ul>

## ○ 地域連携アクティブスクールについて

地域とのつながりの中で、責任を持って社会人として送り出していく、新たなタイプの学校

# 地域連携アクティブスクールの概要



※ 千葉県教育委員会ウェブページ(<http://www.pref.chiba.lg.jp/kyouiku/kaikaku/miryoku/koukou/active-school.html>)より

### 3. 神奈川県

	フレキシブルスクール(3校 県立横浜桜陽、県立川崎、県立厚木清南)	クリエイティブスクール(3校 県立田奈、県立釜利谷、県立大楠)
課程・学科等	横浜桜陽 … 全日制普通科(単位制) 川崎 … 全・定併置普通科(単位制) 厚木清南 … 全・定・通併置普通科(単位制)	全日制普通科
設置のねらい等	<ul style="list-style-type: none"> <li>個別学習を重視して、一人ひとりの生活スタイルや学習ペースに対応</li> <li>幅広い学習時間帯から午前・午後・夜間の時間帯を選択できる柔軟な形態の単位制普通科</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>基礎学力や社会性を身に付けるため、きめ細かな教育活動を展開</li> <li>地域との協働による学校運営体制の構築</li> </ul>
選抜の特徴(H24年度選抜)	<ul style="list-style-type: none"> <li>併置校は課程別に選抜</li> <li>学力検査(全5教科、定3教科)、調査書、面接</li> <li>通信は調査書、作文</li> <li>中途退学者募集あり</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学力検査なし、面接、自己表現検査(2~3分程度のスピーチまたはプレゼンを行う)、課題レポート(釜利谷のみ)</li> <li>調査書は観点別評価</li> </ul>
教育課程の特色等	<ul style="list-style-type: none"> <li>90分授業4限、定時制併置校は6限</li> <li>IDカード常時携帯</li> <li>課程間で履修可能なシステム</li> <li>大学や専門学校との連携、漢検などの資格取得、ボランティア活用等を「学外の学修」として単位認定</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>すべての授業を30人以下で1クラス構成(1, 2年生の数学・英語では、さらに2展開し、15人構成(田奈))</li> <li>基礎、基本のための「ベーシック」等学校設定科目</li> </ul>
成果・課題等	<p>「単位制普通科高校は、…(中略)… 一人ひとりの個に応じるためのガイダンスを十分に機能させながら、生徒の学習希望や進路希望に応えるとともに、地域の特性を生かした特色ある教育内容の提供や、生徒のニーズに対応していくことができるよう、柔軟な学びのしくみを提供するという設置の目的を再確認した上で、教育課程の編成と運用を図ることが必要」(※)</p>	<p>「少人数の授業展開により、基礎的・基本的な内容の学び直しの取組みなどを通じて、生徒の意欲向上や中途退学者の減少などの大きな成果 …(中略)… 新たな設置の方向性も視野に入れて検討する必要」(※)</p>

(注1) 神奈川県では、平成25年度から、従前の前期選抜・後期選抜を一体化し、全課程同日程で実施する「共通選抜」を設定。

定時制の課程(一部の学校を除く)および通信制の課程においては「定通分割選抜」を設定

(注2) 「※」は平成23年3月「これからの県立高校のあり方(神奈川県教育委員会)」より引用

## ○ フレキシブルスクール・クリエイティブスクールについて

### ➤ フレキシブルスクール(全日制の課程)の志願倍率

学校名	選抜	H23	H24
横浜桜陽	前期	1.93	2.13
	後期	1.52	1.64
川崎	前期	2.17	2.27
	後期	1.33	1.37
厚木清南	前期	2.31	2.41
	後期	1.63	1.66

※神奈川県教育委員会公表データより

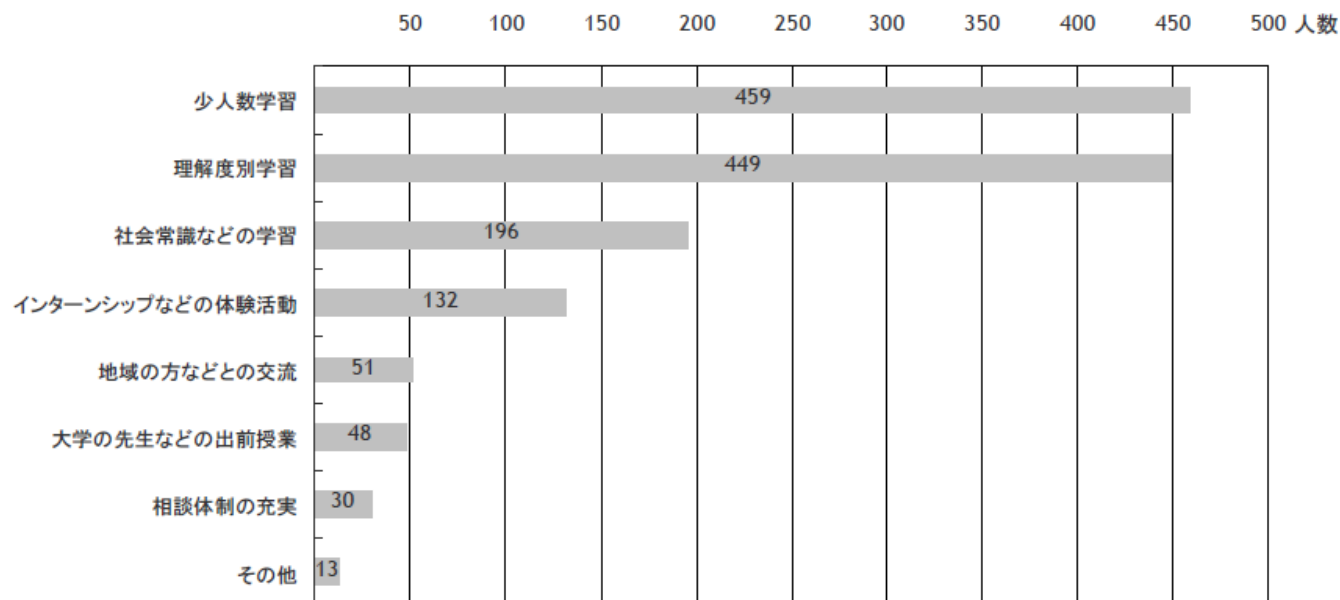
### ➤ クリエイティブスクールの志願倍率

学校名	選抜	H23	H24
田奈	前期	2.81	1.99
	後期	3.96	2.75
釜利谷	前期	2.60	2.12
	後期	4.04	3.23
大楠	前期	1.58	1.56
	後期	2.23	2.31

※神奈川県教育委員会公表データより

### ➤ 平成22年度クリエイティブスクール入学者対象アンケート

問:あなたがクリエイティブスクールの取組みに期待すること



出典:「平成22年度クリエイティブスクール入学者アンケート(平成22年6月神奈川県教育委員会)」



# 通信制の課程について

## 1. 他府県の状況

### (1) 他課程併置校

学校名	東京都立新宿山吹高校	神奈川県立厚木清南高校
設置課程等	昼夜間定時制(4部制 普通科・情報科)、通信制(普通科)併置校	フレキシブルスクール(全日制、定時制、通信制併置校 単位制普通科)
選抜の特徴 (H23年度選抜)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 募集人員 50人(別途、編転枠60人)</li> <li>・ 選抜 単独日程(4月上旬実施)</li> <li>・ 志願倍率 2.12倍(編転枠 2.15倍)</li> <li>・ 選抜資料 学力検査(300点)、調査書(45点)</li> <li>※ 学力検査 ⇒ 国・数・英、自校作成問題(3教科で70分)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 募集人員 270人</li> <li>・ 選抜 前期・後期(欠員が生じた場合二次)</li> <li>・ 志願倍率 前期1.21倍、後期1.19倍</li> <li>・ 選抜資料 調査書(60点)、面接(40点)</li> <li>※ 調査書 ⇒ 学習の評定以外の記載内容についても点数化</li> </ul>
学校の特色等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 在籍者 361人(平成23年5月1日)</li> <li>・ 2学期制(半期認定は認めない。)</li> <li>・ 課程間の履修等 ⇒ 定時制生徒、通信制の単位履修可(「通→定」併修のアイデアもあったが、具体化せず)</li> <li>・ スクーリング 土曜日(前期12回、後期12回)</li> <li>・ 履修登録が在籍の前提、「滞留生」は在籍できない仕組み</li> <li>・ 定時制→通信制の転籍可(通信制→定時制への転籍は不可)</li> <li>・ 例年、難関私立大学の合格実績</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 在籍者 1,308人(平成23年5月1日)</li> <li>※ 全日制约700人、定時制约500人在籍</li> <li>・ 2学期制(半期認定)</li> <li>・ 課程間の履修等 ⇒ 3課程間での相互履修が可能</li> <li>・ スクーリング <ul style="list-style-type: none"> <li>① 日曜スクーリング(年間18回)</li> <li>② 教科スクーリング(火曜 年間18回)</li> <li>③ 夜間スクーリング(年間9回)</li> <li>④ 夏季スクーリング(夏期18回)</li> <li>⑤ 地域スクーリング(年3回) など</li> </ul> </li> <li>・ 学校設定科目「<u>職業一般</u>」→ 学校が事前に適当と認めた職業に一定期間従事した場合、活動報告書と活動証明書に基づき、単位認定</li> <li>・ 技能審査やボランティア活動等による学校外の活動を単位認定</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 託児所設置</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日曜スクーリングを支援するための託児室あり</li> </ul>

## (2) 通信制単独校

学校名	神奈川県立横浜修悠館高校	千葉県立大宮高校
設置課程等	通信制の課程(普通科)単独校	通信制の課程(普通科)単独校
選抜の特徴 (H23年度選抜)	<ul style="list-style-type: none"> <li>募集人員 1,250人</li> <li>選抜 前期・後期(欠員が生じた場合二次)</li> <li>志願倍率 — (後期終了時で欠員367人)</li> <li>選抜資料 前期 ⇒ 面接、調査書 後期 ⇒ 作文、調査書</li> </ul> ※ 選抜資料により、総合的に判定	<ul style="list-style-type: none"> <li>募集人員 500人募集</li> <li>選抜 一期～五期(四期は4月、五期は9月に実施)</li> <li>志願倍率 0.45倍(一期選抜)</li> <li>選抜資料 調査書、作文、面接</li> </ul> ※ 選抜資料により、総合的に判定
学校の特色等	<ul style="list-style-type: none"> <li>在籍者 4,502人(平成23年5月1日)</li> <li>2学期制(半期認定)</li> <li>スクーリング ⇒ 平日登校講座(スクーリング)とIT・日曜講座を科目ごとに選択可</li> <li>※ 平日登校講座(スクーリング) 月～木曜(主として1～4限)に開講、レポート作成をサポート(スクーリング3回でレポート1回が完成)</li> <li>※ IT・日曜講座 家庭のIT環境を活用し、レポート提出(約150～200人程度が利用)、スクーリングは日曜または夏期・冬期に行う。</li> <li>レポートはバーコード管理、IDカード常時携帯</li> <li>支援プログラム ⇒ レポート完成講座＝スクーリングの補習的位置づけ。出入り自由、各教科の教員が対応。</li> <li>⇒ TRY(トライ)教室＝基礎からの学び直しを支援(個別支援)</li> <li>地域清掃活動等を単位認定</li> <li>研修旅行(職業体験の位置づけ): 生八つ橋づくり、農業体験等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>在籍者 1,988人(平成23年5月1日)</li> <li>※ ここ数年は減少傾向</li> <li>2学期制(半期認定)</li> <li>スクーリング ⇒ 日曜日、月曜日、火曜日の3日間、同内容で各日6時間実施(一部の基礎的な科目については、木曜日にも実施)</li> <li>⇒ バーコードによる出席管理</li> <li>自動車通学許可(単車は不可)</li> <li>在籍年限8年</li> <li>スクールカウンセラー週2日配置</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>日曜スクーリングを支援するための託児室あり</li> </ul>	—

## 2. 大阪府内の通信制の状況

### ○ 府立桃谷高校(通信制)

- 多部制単位制(Ⅰ～Ⅲ部 普通科)、通信制の課程(昼間部、日・夜間部 普通科)併置校

#### ※ 府内唯一の公立通信制

- 募集人員 昼間部350人(うち編転枠150人)、日・夜間部300人(うち編転枠150人)
- 選抜 後期選抜で実施(「調査書」「面接の評価」を資料として総合的に判定)

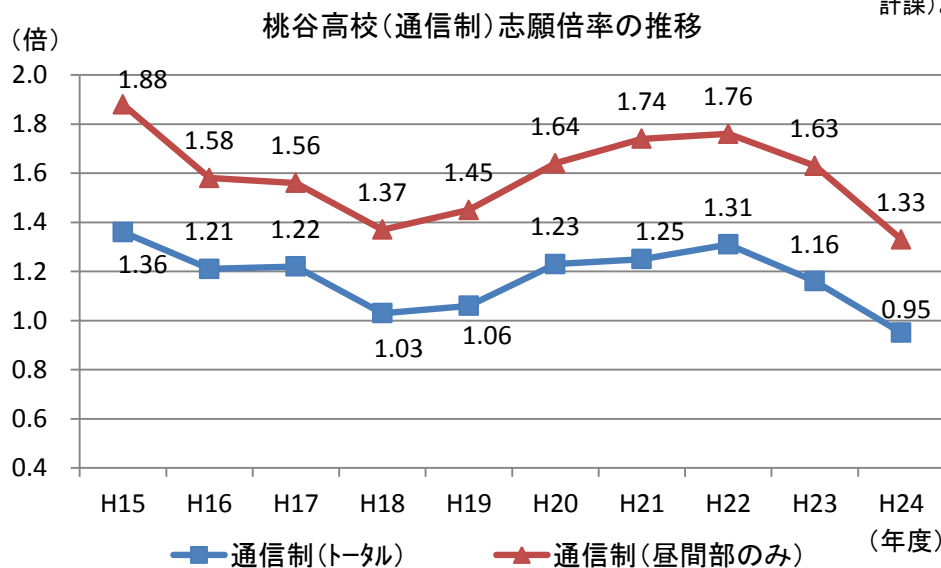
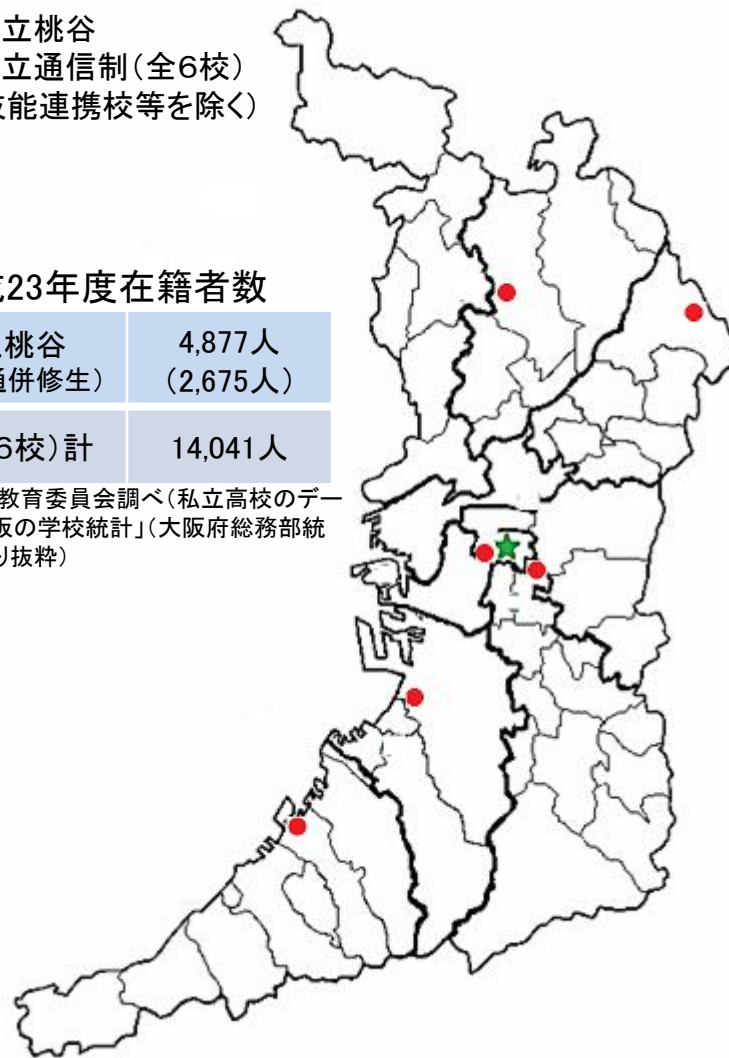
### ○ 府内通信制の設置状況

- ★ 府立桃谷
- 私立通信制(全6校)  
(技能連携校等を除く)

### ○ 平成23年度在籍者数

府立桃谷 (内 定通併修生)	4,877人 (2,675人)
私立(6校)計	14,041人

※ 大阪府教育委員会調べ(私立高校のデータは「大阪の学校統計」(大阪府総務部統計課)より抜粋)



※ 大阪府教育委員会調べ